

週 報



世界へのプレゼントになろう

2016年3月9日(水)

2015-16度第2334回第49期第31回

◇本日のプログラム

「イニシエーションスピーチ」

相沢 峰 会員

◇例会報告—卓話 2016年3月2日第2333回第49期第30回

百束 昭幸 会長 2016年2月23日(火) 地区大会 会長幹事会の報告

会員増強:地区では上半期は増強の方向であったが、当クラブでは減少傾向である。会員増強に当たっては、職業分類と地域に合った、地元の商業に反映したクラブになるように進めてはとされている。

【職業分類調査】地元の職業を反映したクラブにする事と、会員多様性調査で多様な会員の集まるクラブにする事。会員候補者の収集で入会候補者探しを積極的に行う事。

◆職業分類調査の目的:クラブの会員数を増やし、多様な職業の会員基盤を築き、多様な専門知識やスキルを集める

◆多様性調査の目的:地元人口の多様性を認識し、多様な会員基盤を築くことの重要性を認識する。地元専門職業の実態をクラブに反映させる。

【会員維持力調査】会員維持力のアップをする事。会員の満足度をアップする事。退会者の退会の理由を理解していく事。

◆会員維持調査の目的:入会から何年後に、どのような理由で退会するか調べ会員の関心と意欲を維持する戦略を立てる。

◆退会の調査結果から、それぞれのクラブが対策を考える

・入会1~2年後:クラブに溶け込めない。期待したほど親睦がない。多忙で出席規定が守れなかった。

・入会3~10年以降:期待したほどの親睦が無い。クラブのリーダーに不満を感じた。多忙で出席規定が守れない。退職や移転による退会。例会や活動に関心がもてない。退職や家庭の事情、経済的な負担、健康上の理由。

◆会員満足度調査の目的:会員が満足している点、不満を感じている点を知る。満足する点をさらに強化、不満な点を改善する行動計画を立てる。この様な事から、会員増強については数値がしっかりしている事が伺える。

駒場 厚史 会員 2016年2月24日(水) 地区大会 記念講演「国際貢献を問う」感想

記念講演では「国際貢献を問う」と題し、ミャンマー地区を中心に医療活動を行っておりますNPO法人ジャパンハート代表小児外科医「吉岡 秀人」氏の、半世紀をかけ国際医療の最前線で戦う医師のからのメッセージを拝聴しました。

吉岡先生は日本の大阪/神奈川の緊急病院の勤務医として従事されていましたが、1995年にミャンマー(旧ビルマ)に渡り、特に貧困層に対しての治療を開始され、後に自費を投じ2004年に「ジャパンハート」を設立されました。

吉岡先生が携わってきた医療の従事では、写真の紹介からも印象されましたが、現地では直せない病にも最善を尽くし、医療設備の整っている日本で多くの子供たちの病を治すことが出来た事には、本当に感動するものがありました。

下記写真は、女の子の手術前と手術後の写真(出典:吉岡先生)

<Before>



<After>



パネルディスカッション



パネルディスカッションでは水野ガバナーと小宮キャスターを交え、吉岡先生が中心となり「ジャパンハート」の活動をより具体的に説明され、水野ガバナーからもロータリーとしての支援や、吉岡先生との意見交換を積極的に行われ、会場の聴講者には改めて、吉岡先生を率いる「ジャパンハート」の活躍がご理解された事と受けました。

パネルディスカッションの様子です。

坪 昭二 会員 2016年2月23日(火) 地区大会「PBG(パシフィック・ベイスングループ)歓迎昼食会」

一日目は「PBG(パシフィック・ベイスングループ)歓迎昼食会」、第二日目はフルタイムで参加しました。

「PBG歓迎昼食会」ではグループ・フォー・ワン(※)についてPBGの方達とお話するつもりでしたが、飛行機の関係で叶わず残念でした。京浜グループ内での話合いで、基本的には改めてグループ・フォー・ワンを起こしましょう、と云う事となりました。

※グループ・フォー・ワン(Group For One)とは、2750地区の日本国内のグループとPBGの1クラブがペアとなり親睦を深め、合同奉仕プロジェクト等行い、共に発展していこうという制度。現在第2750地区国内では「千代田G・銀座日本橋G・京浜G・山の手東G・山の手西G・多摩南G・多摩中G・多摩東G」の8つのグループがあり、PBG(パシフィック・ベイスングループ)にはE-Clubを含め9つのクラブがあります。